



資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
 関東学院大学非常勤講師
 三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業高等学校・
 常勤講師を経る。

焼き物の「景色」

見立て・表情・景色

きつとないんでしょけど、それでも人は月の模様にうさぎを見ます。今年、関東ではしっとり夜桜が染み、むせぶ空気を月が照らしました。時にはキザったくても人は、虹を空に掛かる橋といい、雲や星座などにも、多くの物をなぞらえ表現します。同じことが器でも行われ、特徴を自然・物などになぞらえることを「見立て」といいます。そして地肌・色・形の変化や見立て・醸し出される印象を「表情」「景色」と表現し、その中に感情や自然・個性を見いだします。

釉薬・結晶

例えば、茶色のビール瓶と濃い緑の瓶とを砕いて混ぜると、淡い黄色のガラスにな

ります。光の三原色を混ぜると白くなるのと同じ現象（加法混色）ですが、青磁などの透明な釉薬もこの原理で発色します。逆に不透明な釉薬では、絵の具の混合と同じ原理で鉱物の粒（顔料）が発色します。一方、温度変化で透明なハチミツから糖の結晶が析出するように、釉薬の中に大小の結晶が生み出されもします。

釉薬とは器の表面に設けられたガラス状の層です。内部では、多くの化学実験が繰り返され、それはまさに調合され宝石が創造される錬金。高温で焼く際に器に降る灰が溶け、自然に生じることもあります。多くは粉碎した鉱物・灰を調合し、水で溶き、焼成前に施します。

窯変・ゆがみ・傷・繕い

釉薬は、その厚みやムラ、焼成条件・土

知りたい！ うつわと食のミニ知識

特別展『茶の湯』

「名碗が一堂にそろいます」、ポスターのうたい文句に違わず、美術書や随筆で多く目にする名物が集まります。その中でも、曜変天目 稲葉天目（展示期間：4月11日～5月2日）・油滴天目・喜左衛門井戸・卯花うのはながきと、国宝の茶碗8点からその半分もが集まる機会はそうそうありません。



重要文化財 青磁輪花茶碗 銘 馬蝗うのはながき 綵
 中国、龍泉窯 南宋時代・12～13世紀、東京国立博物館蔵

との組み合わせで思わぬ変化を生み出し、陶器の素地も同様に影響を受けます。このような制作時に意図しきれない焼成後の変化を「窯変^{ようへん}」といいます。

また窯の温度制御や炎のムラなどで、形に歪みも生じます。時には土の中の不純物が少しはぜることもあります。そもそも美を追究する一方で、生活雑器として器はラフに大量に生産されました。当然陶器は、ろくろでの形成や釉薬をかける時点で個体差が生じ、かつ焼成の影響から完全に同一な物は存在しません。このような背景は、さまざまな違い・変化を受け入れるおおらかさを生みしました。

現在の産業では、ゆがみや傷・色ムラなど予定通りでない製品は「欠陥品」とされ、まず販売されることはありません。しかし「味がある」という表現のように、必ずしも完品が愛され、ゆがみが醜く嫌われるとは限りません。侘び寂^{わび}にある「サビ」など、自然の一部として、美の対象となります。このような価値観のもと、破損した器の傷も一つの経験として景色・美として捉える価値観が生まれます。

一期一会・銘

さまざまな形とゆがみを受け入れる文化は、夫婦茶碗・一咫半^{ひとあたはん}（箸の長さの目安）

それに込められた銘と景色を見るだけでも、日本人が培っていた美意識に触れることができます。和食や器に携わる者にとって、一度目にしておいて、決して損のないものといえます。（先着5組、10名様に招待券プレゼント・101p参照）

特別展『茶の湯』 東京国立博物館

2017年4月11日（火）～6月4日（日）

9:30～17:00／毎週月曜休館

など、多くの中から一人ひとりの手や体になじむ器を自由に選べ、五感で味わう文化につながります（身度尺）。人もさまざまで、器もさまざまな景色・大きさ・手触り・重さがあり、選択肢が無限であるからこそ、その出会いも一期一会です。ですから、器は産地・種類の分類で呼ばれるだけでなく、時折、ふさわしい名「銘^{めい}」が付けられ、使う者の思いが込められます。

美と「価値」を考える

しばしば、他と足並みをそろえるのだけが日本の美・文化と混同されます。しかし、さまざまな個人の価値観を受け入れる自由も存在することが、器からわかります。ゆがみ・釉の掛け残し・ひつついた跡などがある「喜左衛門井戸」という古い茶碗（写真下）があります。産業的には欠陥品です。ところが、評論家・小林秀雄が「率直に見ればただ掘出しのショボタレ井戸である。ただその比類のない彫刻美が曲者で」と評したように、美を見いだす茶人により守られ、現在では国宝に至ります。

おおらかに傷をも受け入れ、景色・美とし、国宝とまでした文化が、ほかにどれほどあるのでしょうか？ この茶碗は、日本の文化に多様な価値観と自由があることを教えてくれます。



国宝 大井戸茶碗 喜左衛門井戸
（展示期間：4月28日～6月4日）
朝鮮，朝鮮時代・16世紀，京都・孤篷庵蔵